

2022 年度 活動報告書

2022 年度骨髄ドナー登録者実績

2022 年度の骨髄バンク新規ドナー登録者 34,507 人（2021 年度 32,371 人）

2023 年 3 月末時点におけるドナー登録者数 544,305 人



認定特定非営利活動法人

全国骨髄バンク推進連絡協議会

〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4 KT ビル 3 階

TEL : 03-5823-6360 / FAX : 03-5823-6365

E-Mail : office@marrow.or.jp <https://www.marrow.or.jp/>

2022年度 全国骨髓バンク推進連絡協議会 活動レポート

新型コロナウイルスの感染拡大の影響は2022年度にも及びました。一方、徐々にではありますが、新型コロナウイルスとの共存が模索され、ドナー登録促進活動や患者さん・ご家族の支援活動、骨髓バンク事業の啓発活動の各分野においても2021年度と比較すると回復しつつありました。

2022年度において、関東地方在住の再生不良性貧血の患児になかなか適合ドナーが見つからない状況がありました。各地のボランティアが更なるドナー登録促進に注力した結果、ようやく適合ドナーが現れました。「誰ひとりとして残さない」というボランティア全員の気概がこの結果をもたらしたものです。何よりもボランティアの活動を支えて下さる皆様のご理解とご支援の賜物と深く感謝しております。

その他、2022年度は以下の各事業を行うことができましたことを報告いたします。心より厚くお礼申し上げます。

○2022年度 事業報告の概要

1. 普及啓発事業

(1)2022 全国骨髓バンクボランティアの集い in 東京

2022年度も東京・新橋の会場を起点としてWeb配信しました。「<原点回帰>骨髓・末梢血採取で骨髓提供はできたけれど…まだ足りない!『ぼくにはドナーがいません!』」というテーマで1部では骨髓液、末梢血ドナー体験者によるパネルディスカッション、2部では適合する骨髓ドナーを待つ患児のお父さまが出演され、ドナー登録を呼びかけました。視聴者からは「久しぶりに患者家族の生の声を聞くことができた」との感想が多く、<原点回帰>によりボランティアの皆さんのモチベーションが高まりました。



2022 全国骨髓バンクボランティアの集い in 東京

(2)共催事業

①骨髓バンク・さい帯血バンク移植症例5万例到達記念イベント

2023年2月に骨髓バンク・さい帯血バンクを介した移植症例が5万例に達しました。2月12日(日)に名古屋で開催された第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会の市民公開講座において、「骨髓バンク・さい帯血バンク移植5万例達成記念イベント」を学会と全国協議会の共催事業として開催いたしました。多くの聴講者に参加いただくことができました。



骨髓バンク・さい帯血バンク移植症例5万例達成記念
第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会 市民公開講座

②全国の骨髓バンクボランティア団体との共催(計5件)

2022年度から全国の骨髓バンクボランティア団体との事業共催制度をスタートさせました。コロナ禍によって疲弊した骨髓バンクボランティアによる患者支援活動、啓発活動の活性化を目的としたもので、2023年度も継続の予定です。

(3)協力事業（計1件）
2022 グリーンリボンランニングフェスティバル
（主催：NPO 法人日本移植者協議会 他）

(4)普及啓発イベントの後援（計3件）
東京雪祭 SNOW BANK PAY IT FORWARD 2022
（主催：一般社団法人 SNOW BANK）他、2件

(5)患者遺作展などへの協力（計37カ所）
MAMOのメッセージ展4カ所／いのちの輝き展
17カ所／あやちゃんの贈り物展2カ所／患者と
ドナーのお手紙展1カ所／わたしががんばったよ展
13カ所
2021年度の4カ所と比較すると2022年度は合計
37カ所と大幅に増えました。



東京雪祭 SNOW BANK PAY IT FORWARD 2022
献血併行型登録会の様子

(6)機関紙「協議会ニュース」の定期発行（計12回）
発行総数44,000部

(7)啓発グッズの頒布

2020年度以降、コロナ禍の影響でイベントや献血併行型登録会の開催が減少し、啓発グッズの頒布数量は低迷していましたが、2023年度以降の活動活性化に備え、ハローキティを登用したポケットティッシュ、クリアアイルの新作製造に着手しました。出荷は2023年度からの予定です。

(8)東京マラソン2023チャリティ

東京マラソンが2023年3月5日（日）に開催されました。2019年度の2020大会で寄付先団体に選出されて以降、コロナ禍のおかげで中止、延期が続いていたため実際にチャリティランナーの皆さんと初めてお会いし、また、応援をすることができました。完走後にご利用いただくラウンジではパネル展を開催し、チャリティランナーの方々に血液難病患者さんに対する理解も深めていただきました。

東京マラソンでは患者支援活動のための寄付を得ることが目的となっていますが、同時に非常に有効な啓発イベントでもありました。全国協議会のチャリティランナー以外の方からも、「ドナー登録は何歳までできますか？」、「どこに行けばドナー登録ができるのですか？」、「骨髄提供の経験があります。患者さん支援活動、頑張ってください」といった質問や励ましの言葉を多くの方から頂くことができました。

2. 患者・ドナー支援事業

(1)白血病フリーダイヤル（患者電話無料相談）

コロナ感染拡大防止の観点から、2022年8月、9月の2カ月にわたり相談受付を中止しました。その他の期間は第2、4土曜日みの開設となりました。

白血病フリーダイヤル（累計開設回数1,270回、累計受付相談件数9,042件）

2021年度の開設回数 19回（8月、9月を除く第2、4土曜日）

受付相談件数 135件 相談員数 延べ73人（うち、医師延べ19人）

(2)ハンドブック「白血病と言われたら」の頒布活動

頒布数 上巻 124部／下巻 122部 ダウンロード数 1,556件（累計5,195件）

(3)血液難病の患者を経済的に支援する基金の運営

・移植費用支援「佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金」

申請件数21件 助成件数19件 助成総額2,979,683円

（累計 助成件数342件、助成総額91,905,822円）

・分子標的治療薬や精子保存支援「志村大輔基金」

申請件数 分子標的薬 94件、精子保存 7件
 助成件数 分子標的薬 79件、精子保存 5件
 助成総額 分子標的薬 3,920,000円、精子保存 91,580円
 (累計 分子標的薬 助成件数 611件、助成総額 31,500,000円
 精子保存 助成件数 100件、助成総額 3,636,648円)

・未受精卵子保存支援「こうのとりのマリーン基金」

申請件数 卵子保存 2件 助成件数 卵子保存 2件 助成総額 卵子保存 109,900円
 (累計 卵子保存 助成件数 38件、助成総額 6,388,094円
 体外受精 助成件数 2件、助成総額 552,680円) ※体外受精は2018年1月まで

3. より良い骨髄バンク・医療制度の充実を求める事業

2022年7月21日付で以下の項目につき、厚生労働省、骨髄・さい帯血バンク議員連盟、公益財団法人日本骨髄バンク、日本赤十字社に対して要望書を提出しました。

- ①ドナー登録のオンライン化、スワブ検査方法の早期導入
- ②コーディネート期間短縮のための具体的取組と実現化
- ③移植患者がドナーへ感謝を示す方法、場面（対面）などの再検討
- ④移植患者負担金軽減への具体的対策の実施
- ⑤骨髄バンク・さい帯血バンクの移植累計5万例到達について

○財政状況

2022年度 決算報告の概要

経常収入は予算40,618,100円に対し、41,093,916円の実績でした。多くの方の善意に支えられる募金、クラウドファンディングによる寄付など、多くの支援者の皆様に支えられた結果です。

支出に関してはコロナ禍の影響で予定していた事業が中止や延期となったことから行事費の執行率が57.1%に止まったこと、患者支援金については助成件数が増加した一方申請内容により1件当たりの助成金額が低減し、執行率が71.0%に止まったことが影響して、支出予算45,891,896円に対し、実績が37,647,239円（執行率82.0%）という結果でした。

※2022年度 活動報告・決算、2023年度 事業計画・予算の詳細はホームページに掲載しております。

収入の部			支出の部		
科目	2022年度決算	2023年度予算	科目	2022年度決算	2023年度予算
会費収入	336	336	患者支援金	7,101	9,000
賛助会費	2,171	2,200	行事費	3,424	5,900
寄付金 ※	17,669	15,000	製作・印刷費	1,609	3,380
募金箱	17,848	15,500	交通・通信費	2,436	3,900
販売収入	1,505	2,500	事務費・他	5,844	4,887
雑収入	1,417	19	人件費	14,092	14,365
その他	148	150	家賃・水道光熱費	3,141	3,243
収入合計	41,094	35,705	支出合計	37,647	44,675
			収支差額	3,447	▲ 8,970
			次年度繰越金	119,456	110,486
			(うち、基金)	(83,315)	(70,530)

※2022年度の寄付金収入にはクラウドファンディングによる寄付10,101千円を含む。全額をきち子基金に繰り入れ。

2023年度も白血病をはじめとする血液疾患の患者さんご家族を支援するため、ドナー登録推進、より良い骨髄バンクと移植医療体制の充実、患者さんの経済的支援等に取り組んでまいりますので引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。

以上